

昨年10月7日に、ガザを実行支配するハマース主導によるパレスチナ戦士たちはフェンスを突き破って、また、パラグライダーやモーターボートを用いて越境し、イスラエルを攻撃した。この攻撃は国際法に違反すると言われ、非難されているが、どのような攻撃であったのか、正確な事態を知りたいと思っていた。岡真理氏の『ガザとは何か パレスチナを知るための緊急講義』で、この疑問について教えられたので書きたい。新聞、テレビでは、幼児を殺害し、女性をレイプし、無差別で残虐な攻撃であったと大々的に報道されていた。この報道によってハマースは極悪人という印象を与えたことは事実である。しかし、これはイスラエル側からの報道で、岡氏は正しくないと解説している。

越境した戦士たちは、ガザ周辺にある12の軍事基地を占領し、そこにいたイスラエル兵を捕虜にした。その後、イスラエル軍との交戦になり、基地にいた戦士たちは全員殺された。この戦闘は、占領からの解放を目指す正当な武装抵抗である。ところが、正当な抵抗であることは伝えられず、キブツと野外音楽祭が襲撃され、民間人が殺されたことが強調された。民間人を人質にし、殺傷することは国際法に違反するが、岡氏は、間違った戦術を取ったことによって、解放を求める武力抵抗の全体が否定されるものではないと言う。アルジェリア、アイルランド、ベトナムでの民族解放闘争において、テロを行った事実がある。ハマース主導の奇襲攻撃による民間人殺害と拉致が戦争犯罪に当たるとしても、その一事をもって、イスラエルのパレスチナ占領という継続的な犯罪や占領下のパレスチナ人を無差別に攻撃することは正当化されない。岡氏は、ハマースをイスラム国（IS）のテロ集団と同列にして、イスラエルへの攻撃をテロ攻撃と見なすことは、問題の根源を覆い隠すと言う。匿名で、イスラエル軍は軍事基地を攻撃したパレスチナ戦士たちを殲滅するために空爆し、その空爆によって、自国兵士を殺害したという証言がある。また、人質になった女性が解放され、パレスチナの戦士は人道的に扱い、頻りに水もくれ、外に涼みにも出してくれたと言う。更に、人質になっていた者は一人を除いて皆殺されたが、殺したのはイスラエルの治安部隊であったという証言もある。イスラエル軍が殺害したものを、全てハマースの仕業と言いくるめている。イスラエル側は、パレスチナ人が犯した過ちだけをあげつらい、自分たちの犯罪行為をずっと正当化してきた。イスラエルはハマースの急襲と断定し、ハマースを「けだもの」と断罪しているが、75年にわたる歴史的事実経過を見て、「ユダヤ人によるユダヤ人のためのユダヤ国家」建設のための国策はパレスチナ人を差別、抑圧、殺害し続けた蛮行の事実を隠せない。戦争になると、互いに自己正当化しフェイクニュースを作りあげ、相手の犯罪であると責任を負わせる。ロシアの報道を聞いても、相手の非を宣伝するだけで、自分たちの醜悪な犯罪は隠し通そうとしている。

イスラエルは、10月7日の急襲はハマースによるとし、ハマースの根絶を目指し、ガザ攻撃を止めない。ところが、急襲した戦士たちには、色々な立場の人たちが参加していた。その中に国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）職員が12名いたことを知って、私は驚いた。そのため、資金拠出を一時停止する国もあった。職員たちは国連職員として中立の立場に立つことを重々分かっていたはずである。それなのに、急襲に参加したということは、イスラエルのパレスチナへのあまりに理不尽な攻撃に怒りが抑えられず、加わったのではないかと推察する。岡氏は、彼らは隣人の痛みを共感する人間の心を持っていたのではないかと推察する。岡氏は、パレスチナが置かれた状況を理解し、国際世論を高める中で、停戦を強く訴えている。人を殺してならないという単純な倫理を取り返したい。